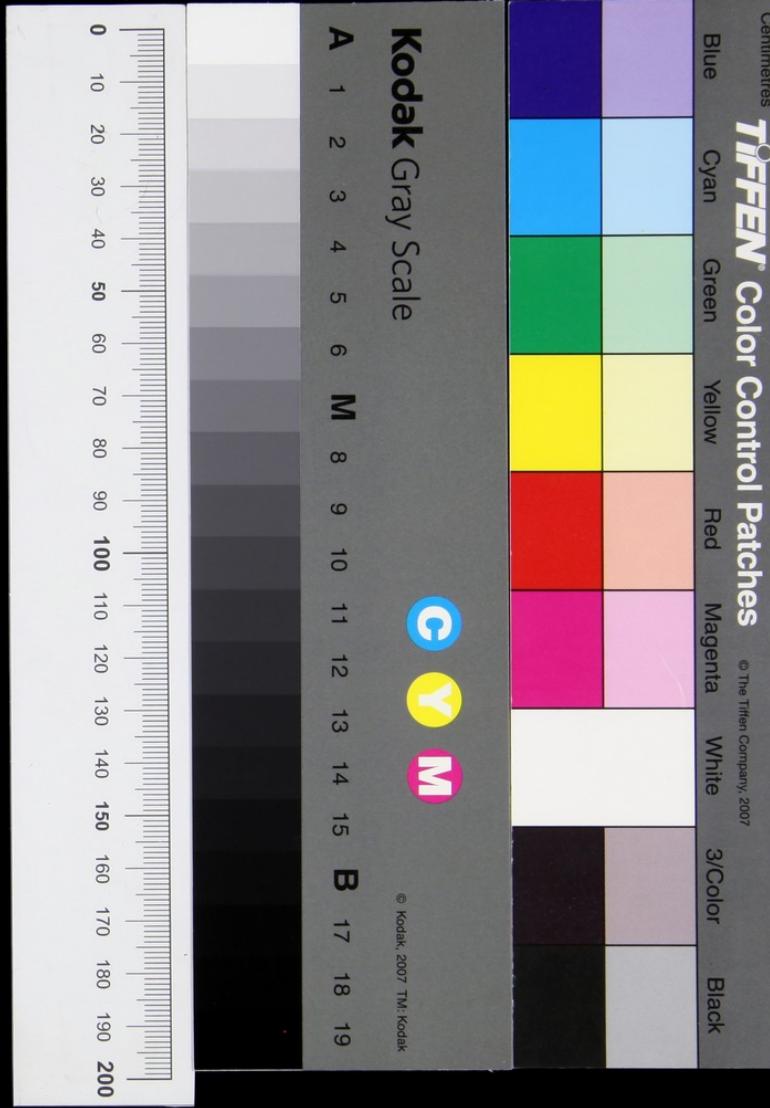
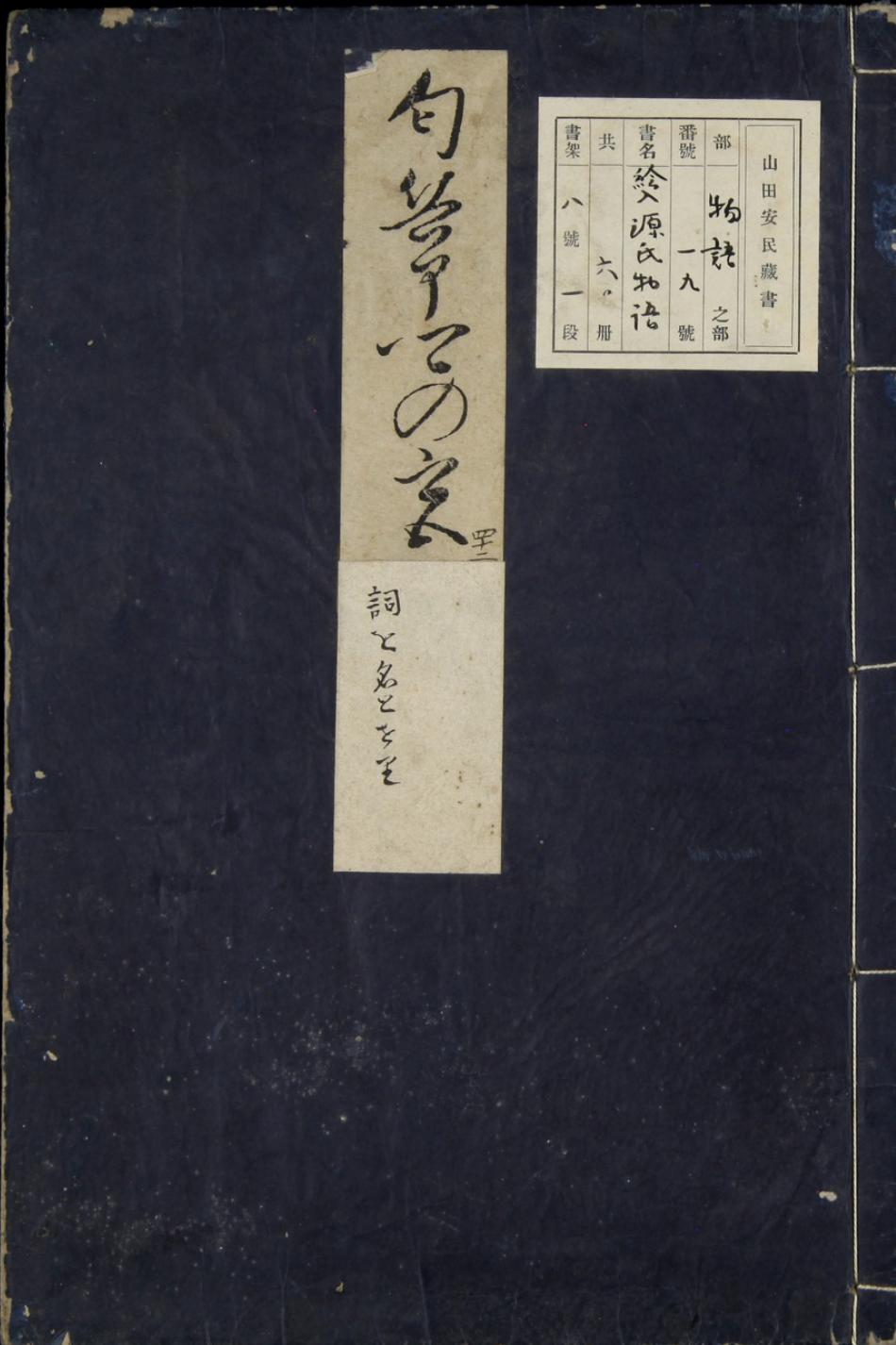


# 絵入源氏物語

## 巻四十二 匂兵部卿の宮

楣山女学園大学デジタルライブラリー

楣山女学園大学図書館



美才は又うながすての  
 ひきうちれかへる後<sup>後</sup>  
 づくへきのれすゑへりありがくをうり  
 きりおの<sup>金泉院八家通ノホシ</sup>とけんへくへりゆく。この  
 どおの二の家<sup>白</sup>それより。一の家<sup>金院</sup>とての姓<sup>白</sup>  
 家の姓<sup>美</sup>もとこれニあらん。うしるよこくうくち  
 れぬとくりて。げつとううわめあり。うし  
 あみれど。つともばゆうくにじむりをぞうべし。  
 た。これでのゆうぎゆうぎで。うみてるぬめ  
 くくがつとせゆとて。うみれうくひに。  
 人のうみれうくひに。うみれうくひの御  
 うみれうくひのうみれやうみれうくひのうみれ



まんうへはうよあうりつうりうりけうばの人の  
れ心うとくとくもぐらみうて治一ゆへ三えへ  
二事院はうりまう善えどもうやんとくとく  
れよとくとくはりみて。今上 略  
かうもとくとくはりみて。三えどもくとくが  
かうもとくとくはりみて。づきえもとくとくは  
きをとくとくはりみて。うれ心やすきをとくとく  
あねあくとくとくはりみて。元船一ゆへはくとくとくは  
第一事院のうれえれまちの東の墓とくとくは  
あくとくとくはあくとくとくはあくとくとくは  
あくとくとくはあくとくとくはあくとくとくは  
あくとくとくはあくとくとくはあくとくとくは

とがまくもあれてよあつち。うともひりて、つと  
 りくらうづきまを経六のまちんとのまうす  
 られのむのぼりゆくと、きどせアの筋つゝと  
 くまひよめにけり。庵くれまく後、と風  
 風けむかくし、ゆくべ、かくくつるり  
 おうすぐくすとども。のくうのうひきいし  
 よ、まう里とぞ、一ノ茶の庵とぞ、わうがの西  
 とて、わうタヒヨケ、へたの、と茶のやう  
 なります。づきまを経六のまうすの、  
 へも、庵の、わうタヒヨケ、へたの、と茶のやう  
 おのゆきくまく、ゆくべ、のまうすと

三三

くまくまく、けりう限の、せよ。とくらうて、けくらうて、あ  
 く人の、家ゐの、たまうくすけられて、せれあひ  
 もひうち、こゆひづく、義よもれさあくうを。  
 独り、あく、うきうき、の、庵わくすばくうの、  
 ゆきくらうく、ひく、うけられまううと、まうの、  
 まくして、じ、うの、の、うらう。た一茶の、えきつ  
 せきをすて、あん、と、茶どと、おどよすみ日げ。  
 ううううううう、す、けりう、ニ茶庵と、けくらう  
 えぐく、お茶庵の、まの、ゆく、うて、せよの、まく  
 まの、まも、うひうの、れす、ぬの、まく、う  
 まく、あくの、ゆく、あくの、まく、う

うきよとてす。おひひもくらゆのとれ  
 うきよのれとれ。音のれとくのまへ。  
 わくあすすくわく。おひひもくやせりつ  
 まくまくよ。盡の<sup>生</sup>人のゆうじく。うきよ  
 うきようばづくまくとつくく。うきよ  
 うきようかくまくとつくく。うきよ  
 我心うきよまくとつくく。うきよ  
 うきようかくあする。うきよ  
 われきのく人焼<sup>生</sup>とひきそねあく。うきよ  
 うきよくせくと火をけらうやう。うきよ  
 うきよくせくと火をけらうやう。うきよ

三四

うちのくい<sup>草本</sup>くい。くいからくいにはくいふと  
 くいす。腹うきくいとせがたれとて。まくまく  
 うきのとのひき様とくとく。あのうき  
 うき。ちどり<sup>は</sup>絵とくねれも。あのうきの盤し  
 げ。うきうきぬくも。うきまくう地<sup>生</sup>うん。二ふ志  
 美<sup>葉</sup><sup>ほ</sup>のうき。うきのうきつけゆうく一<sup>一</sup>あく。  
 うき院のうき。うきうきうき。うきうき  
 のえもみくらゆむりくす。うきうきうき  
 うきうき。うきうきうき。うきうきうき  
 うきうき。うきうきうき。うきうきうき

もうのわ階やととへづがこれうれえうめく。  
 つまふくらうへておもひびきはりりますゆく  
 りふき臺（タニ）とまつてよきのひちどりづけ  
 うんづわて、づきへとまつひをづくもで、  
 そじれうとまつたのへやのゆうとまつます。  
 まゆくととのへをすくりよる（スル）やまともまよ  
 うあ房（アラカニ）の中（ナカ）むかひあてやうよや  
 すまがまれうーーりとせはつ院（イニヤ）のうちせぬ  
 うすすくありくゆきべくとのいがくと  
 まうきあらひ（ハラヒ）づきりおげあれまく人金（ヒメキ）  
 緒（チト）のゆゆのゆく（シテ）一ふ腰（ヒザシ）すれま

と一ふ腰（ヒザシ）りりとうんぐまうく（クマ）づくは  
 かありきぬよとまづす（ハサフ）のまのめいほくの年  
 月（ツキ）よきよきり経けくのよこてももすとま  
 とうううでかんがえ（ハサフ）い今（コドロ）くいれなまくちひを  
 そぞくくゆく、月（ツキ）よしよし余念（ムカシ）くうりく  
 そひの山（サン）八縁（ハジン）がりくのくじとされゆきよこけ  
 ぎのすづれくよおもひをばゑの出入（ヒヂリ）強紙  
 ううてのゆのやくよされりうきげ工（ハサフ）ば  
 えればくと衣（ヒナ）す、尾（テ）よもうるもがく（ハサフ）うもく  
 まごもつぎくのゆくもがく（ハサフ）うもく

つておとす。されとまほけ。おまかげ。  
柏原直季  
 けのまほひ。めぐらす。ゆりくつぶ。うにぎはつ  
 ちくふりれど。まづきんまよ。しやまよ  
 まくあをそも。まくさうと。めぐらん。ごく  
 ごくすられ。ごくまく。めぐらん。ふくら  
 けくとも。はくふく。うぢうぢ。うやうや  
 まくおきよ。めくせん。せんびくの。城カニ  
 とくさんまくさく。れとも。ひまくと  
 まれ経けり。

美作  
 ゆばつかわる。まく。うぢうぢ。うぢ  
 まくもくの。城カニ。うぢうぢ。うぢ

かねて城カニ。うぢうぢ。うぢ  
 ゆばつかわる。まく。うぢうぢ。うぢ  
 まくもくの。城カニ。うぢうぢ。うぢ  
 うぢうぢ。うぢうぢ。うぢうぢ。うぢ  
 うぢうぢ。うぢうぢ。うぢうぢ。うぢ  
 うぢうぢ。うぢうぢ。うぢうぢ。うぢ  
 うぢうぢ。うぢうぢ。うぢうぢ。うぢ  
 うぢうぢ。うぢうぢ。うぢうぢ。うぢ

物語は、それとあつちととすけて、おもへう  
後<sup>拍手</sup>のせば、うとやぶれすがたうりけんもやを  
うめやじてみれやうどうもううよ。うら  
えてもあくまきまくわちまくつまく、元服<sup>喜</sup>の拍<sup>手</sup>  
うりはれとすまひとすまびとせ中<sup>上</sup>もて  
うまかで、まくわきまくてももやあまゆれのうびう  
も。うくよつづのふきにうちうりうりうる  
うまのゆゑ<sup>金上</sup>のゆゑのゆゑうりうりうりうり  
うまのゆゑのゆゑのゆゑうりうりうりうりうり  
いとうゆゑのゆゑのゆゑうりうりうりうりうり  
うまのゆゑのゆゑのゆゑうりうりうりうりうり

三七





三九

とよめりうきくあんまうけふくわやもひま  
 で、人のうしおをあこまうせおもえあんじく  
 うりもゆくへきて、されば、うげのを  
 うれうらうへとおほはなみのうづま、あくせい  
 とき、かく人のお城よ。おハ梅のま園をうぐひ。  
 然ばとれ人のうづや、おもむく、おつまむする  
 痘の多よ。おうへ心うへし、おぞ、老とすく  
 まよ。おうへや、おうじ、おとせ、おげ、おきこれよ  
 うかへ、おとせよ。おおがれのじけひまで、  
 まよおとせよ。おとせよ。おとせよ。

のうかのうだすくらうびやううどすまく  
 すくらうのうくらうとせんぐく  
 くらう。音のほどもすぐてくくく  
 のうやうぐく。くくくくくくくく  
 く。原中ねはえよたるよまうつ。遊ひるだよ。  
 くくよくくのをくくくくくく  
 あくどくくくのくくくくくく  
 世人へくくくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくく  
 わくべくくくくくくくくくく

三十

をばのねうりとべのぬりものも種とも無色とく。流  
 ワニの心よつて。がくとくくへ、とくとくく  
 う。青魚の身一良とく。やうよくとくく  
 いきうちくとくとくとくとくとくとくとく  
 く。うかうかとくとくとくとくとくとくとく  
 とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
 かくます。おとすとくとくとくとくとくとく  
 とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
 とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
 とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
 とくとくとくとくとくとくとくとくとく

まよひやのゆうなうふくうよ。うづくつて、うふ  
あくわくうるよ。うづくんば。うづくくうぐも  
すてはう。うかうて、うよもせぐふくのうくいど。  
うづくやうりけんべのゆう。うづくんと  
うどへまよて、うづくもあうす。うづくくも  
三位の寧おとてれ。中ねもまよれぬ。うづくくも  
かくす。うづく人よて、うづくうづくうづく  
人のうづくとて、うづくうづくうづくのうづくへかき  
がまくらまく。地義ううどもあうづく。うづく  
うづくうづく。うづくうづく。うづくうづく。うづく  
うづくのうづく。うづくうづく。うづくうづく。

はもつてばされよ人をあらへるべしとて  
まくわざれうととむかうりりアラブシマム  
クゼサカレとめのくふを徳あればぞくれくらびの  
え葉とらへる所あつた。アラカヘテシカ  
えちあく。アラカヘテシカシムキリ。アラカヘテシカ  
シムのくふ而わゆる。アラカヘテシカシムのくふと  
シムのくふ。アラカヘテシカシムのくふと  
アラカヘテシカシムのくふ。アラカヘテシカシムのくふ  
アラカヘテシカシムのくふ。アラカヘテシカシムのくふ  
アラカヘテシカシムのくふ。アラカヘテシカシムのくふ  
アラカヘテシカシムのくふ。アラカヘテシカシムのくふ

内侍のすりじの六のあとすくれてか  
 けむとへあめうつてかひ出候せよれそこの  
 がくめぞ處うちべしとくわくまくはなに心  
 げうきく一筆文のまわくひづまのん  
 うらかくわくもくよじくさくをもくくく  
 りくじくわくくもくよじくさくをもくくく  
 うのう経てん人のうの處をもくくんじと  
 ううくべれちうく  
 ううくくうくうくうくうくうくうくうくうく  
 ううくくうくうくうくうくうくうくうくうく  
 ううくくうくうくうくうくうくうくうくうく  
 ううくくうくうくうくうくうくうくうくうく

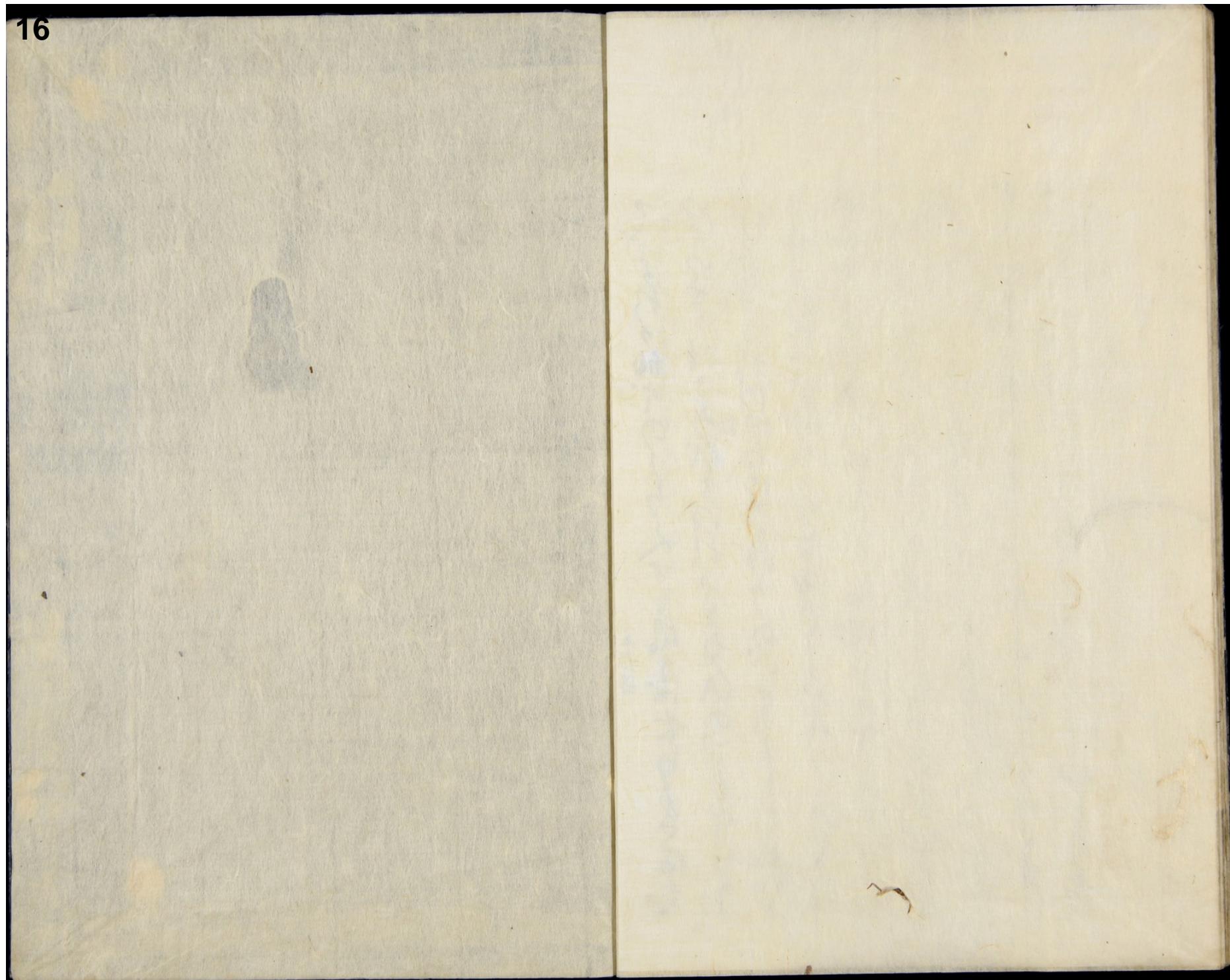
度量  
 ううくくうくうくうくうくうくうくうくうく  
 ううくくうくうくうくうくうくうくうくうく  
 ううくくうくうくうくうくうくうくうくうく  
 ううくくうくうくうくうくうくうくうくうく

よくじとくとよあきとよこりとよりとよくん  
 のううづひーきりとよむにうとようかくよよ  
 おうすうじれきうのねくきいじののくづれ  
 とくとくくげくくきくくがくがくまくまくまく  
 おうううのまへげくとくとくとくとくとく  
 うのううひくちのまくまくまくまくまくまく  
 うううやげくうくうくうくうくうくうく  
 うううううううううううううううううううう  
 うううううううううううううううううううう  
 いとうううううううううううううううううう  
 いとうううううううううううううううううう  
 うあがまくかうそとくとくとくとくとくとく

遠からずすれどもうつまうる事なしやとくら  
 まくら。此の坐つ坐ミハタクニキ中納ナカナム。左大キオオシカム。さうの  
 と遠くわざは。是皮スルよりまだうづきうちふく。  
 六事院ロクジンへおつす。右のやうすよ。おつまくりて。  
 えんちろとれば。またもあらまくら。まくら。あさ  
 さをあそびて。つりぬとげ。うとせて。い、うる  
 ぬのゆゑ。やうのゆゑ。うの心や。うかば  
 もくらとくら。うるせの南ミナミのひきうるの  
 じと。南ミナミのなかねつ。うらぶらとじくと  
 えんじだまくらと。まくらのたて。うり。ばくうりけ  
 うらぶらと。また面白くうりよ。まくら。一軒

三十品終

て。まくらと袖アラタマのまくら人ヒトすと風フウふ。めありとく梅メ  
 やくらは。うらびとれ。うらぬの。ごくサウ  
 ワわう。例ヨリの。中ミハの。ゆめりの。まくら。くまく  
 もやまく。まくらと。まくらの。そく  
 お房オバンともやまく。やうに海シマうまむれ。ご  
 まくら。まくらと。まくらと。まくらと。まくらと。  
 もうで。まくらと。まくらと。まくらと。まくらと。  
 て。まくらと。まくらと。まくらと。まくらと。まくら  
 まくらへ。やうにまくらと。まくらと。まくらと。まくら  
 まくらと。まくらと。まくらと。まくらと。まくらと。



17

